



TITLE:

京大対関学ディベート報告

AUTHOR(S):

酒井, 浩子

CITATION:

酒井, 浩子. 京大対関学ディベート報告. 岩本ゼミナール機関誌 2001, 5: 95-97

ISSUE DATE:

2001-03-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56887>

RIGHT:

京大対関学ディベート報告

文責：酒井浩子

テーマが決まるまで

まずゼミ全体でアメリカ班・アジア班に分かれてから、アメリカ班内で関学・阪大班に分かれた。そして6月頃から、関学とのテーマについての交渉をはじめたが、ディベートの内容についてはすんなりと「アメリカ経済」に決定した。

初め、京大側が「アメリカのニューエコノミーの是非」をテーマに挙げ、関学側は「アメリカがソフトランディングするかハードランディングするか」と主張した。お互いがニューエコノミーの信憑性について疑問をもっていた事、ソフトランディング・ハードランディングという言葉の定義が曖昧であったために、結局テーマは

[現在の好調なアメリカ経済は、今後1～2年の間も好況を維持していくか、急激な不況に突入するか。]

となった。

立論と資料の作成

京大側「アメリカ経済は好景気を維持していく」

要因 情報技術革新による生産性上昇

労働市場の柔軟化・移民流入による低インフレ・低失業率の維持

海外からの資金流入と株価の維持

関学側「アメリカ経済は急激な不況に突入する」

要因 労働市場逼迫・石油価格高騰によるインフレ率上昇

経常収支赤字の増大

中南米経済の悪影響

株価下落から暴落へ

今回のディベートでは、刻一刻と変化するアメリカ経済がテーマであったため、非常に興味深い、やりがいのあるものであった。資料探しなども、アメリカ大統領選の直前であったこと、日本でもアメリカの株価に関心が集まっていたために、情報を集めやすかった。

しかし、単に情報量が多いから言いと良いという訳ではなく、当然その資料が信憑性のあるものかどうか、我々の主張に有利なものかなどその取捨選択が求められた。適切な資料を集めるという点では、関学側が京大に勝っていたように思う。

我々の立論では、完全にではないものの一部ニューエコノミーを擁護する立場を取り、最初のテーマ交渉段階での内容がお互いに採用されていたと思う。

また、最新の統計は、本や雑誌が少なく、ほとんどをインターネットで入手したことから、われわれも情報技術革新の恩恵を受けているなあと実感した。

本番当日の議論

「割高な株価が暴落するかどうか」と、「経常収支赤字が維持可能かどうか」が議論の中心となった。前者に付いては、関学側が株価の暴落を、特に大きく下がっていたNASDAQを取り上げて、全体的に今後下がっていくことが予想されるというのに対し、京大側がNASDAQはアメリカの株全体を反映していないので、株価が下がっていくとは考えないと答えた。

ここで、NASDAQではなく、ダウ工業平均や、S & P 500などを示されていれば、関学側の主張が通りやすかったのではないと思われる。

後者の経常赤字問題であるが、90年代のアメリカの経常赤字は、民間部門による赤字であり、80年代の政府部門による財政赤字から来るものと区別されるべきであると京大側は主張した。民間部門の経常収支赤字は、膨大な資本収支黒字の裏返しであり、アメリカへの資金流入が続く限り維持されるものであるということは、説得的に述べる事が出来たと思う。

反省点

本番では両者とも、用意した資料を使いこなせなかったことが、残念であった。これは、資料を用意しても、メンバー全員がそれを使いこなせるまで理解していなかったという、勉強不足が大きな要因であったと思われる。

私としては出来るだけ多くのメンバーを集めて、全員が本番で発言できるようにしたかったが、勉強会への参加に関しては、それぞれの事情もあると思うので強制ができないため、班長としていかに少ない時間で多くのメンバーが知識を共有できるか、そのために何が必要かをいつも考えていた。しかし、そんなことはやはり困難で、本番後の審判の批評でも一部の人間だけ発言していたと、チームワークの悪さを指摘されてしまったことは、大きな反省点である。

全体を通しての感想

アメリカ経済が今後1～2年で、順調に緩やかな成長に移行するかどうかというテーマであったが、現在（平成13年1月）では株価が急落して先行きが不透明になってきており、アメリカにとって最後の切り札がFRBの金融政策であるとのニュースが最近をよく新聞で見かける。まさに、タイムリーな話題をテーマに出来たと思う。日々変化する状況は当然ディベート後も変化していくため、非常に興味深く幸運なことであった。私はこのディベートの参加した意義とは、勝ち負けにこだわる事ではなく、経済の状況について自分たちで資料を集めて調べ、どのような理論が実際に応用されて使われているか理解する

というプロセスを経験することで、今までと少し違った見方で、いろいろな立場から経済を見ることが出来たことだと思う。また、内容とは関係無いが、発言する時にいかに説得力を持ったことが言えるか、どうすれば相手から、自分の聞きたい事を引き出すかなど、これまであまり気を使わなかったことをこの機会に考えさせられた。自分自身、勉強不足であったと思うし、大きな口は叩けないが、今後に残る良い経験が出来たと思う。

ディベートのために、当然勉強会をする事が必要になっても、メンバーがそれぞれアルバイトなどで忙しかったこともあり、全員が揃って勉強することは、本番直前まであまりできなかった。そのため、ほとんどがそれぞれ自宅でやったこと・考えたことをEメールで伝えるという形になり、こんなところでITの恩恵を感じたりもした。それでも、集まって何かをする時には、雑談も交えながらではあるが、楽しく効率よく勉強できたと思う。こんな形でも、充実した時間を過ごすことが出来たのは、協力して下さった先輩、2回生・3回生の関学班メンバーのおかげなので、この場を借りてお礼を申し上げたい。

頼りない私を支えてくださった皆様、
快く審判を引き受けてくれた、柵山さん、西丸さん、いつもいつもアドバイスをくれた遠藤さん、柴田さん、藤嶋さん、和気藹々と最後まで頑張った（頑張らされた？）2回生の5人、和ませてくれたシンちゃん、阪大班でもあるのにかなり働いてくれた藤中1号、悠紀ちゃん、よき相棒であった米崎くん、ほんとにどうもありがとうございました。